



【概要】

誕生のきっかけは、平成28年夏に当局職員が火災現場で聴覚障害者の避難誘導がうまくできなかったことから、「ひと目で避難を促す絵文字を作りたい」と出身校の川崎医療福祉大に提案し共同開発が始まりました。この提案は、不特定多数が集まる場所でのNBC災害などを想定したものでした。

開発が進み、「平成29年度消防機器の改良及び開発」に応募し、機器の部「最優秀賞」を受賞など数々の賞を受けたことで、災害対応ピクトグラムの有効性、必要性を感じました。

また、受賞したことで消防機関紙への掲載やテレビ等の取材、行政視察等によりピクトグラムは全国的に認知され、令和5年7月現在では92の消防機関が導入されています。

今後は、開催予定である2025年大阪・関西万博や2025年世界陸上など将来開催される大規模イベントを踏まえ、ピクトグラムの必要性を全国に発信するとともに、さらなる普及と新たな開発に向け大学との連携強化を図り、統一の災害対応ピクトグラム表示が全国に広がっていくことを目標としています。

【ピクトグラム活用状況】



視覚的効果により
外国人・障害者など
誰にでも伝わる！



- 大型商業施設
(岡山市最大級)
- クリスマスイブ
夕刻に火災発生
↓
1万1千人の客を
スムーズに避難誘導



- NBC訓練
バルーン型ピクト
グラム設置状況
(岡山駅構内)
- 配備実績
・ラクビーワールド
カップ一部会場
・G7広島サミット
等

「JIS規格適合」

日本産業規格に適合させることで普及を図る！

全国統一表示



「ピクトグラム製作例」



災害対応ピクトグラム導入状況 (R5.7.5現在)

機関	導入数	導入機関
消防機関	92	政令都市10他
その他	200	市内学校・園等

ピクトグラムとは、一般的に「絵文字」や「絵単語」と呼ばれ、何らかの情報や注意を促すために表示される視覚記号の一つです。

日本においては、まだ外国語でのコミュニケーションをとることが困難であった1964年の東京オリンピックの際に、日本人と訪日外国人のコミュニケーションを円滑に繋ぎ、国籍や言語の違いに関係なく正確な情報を伝える目的で導入されたのをきっかけに、その後、国内に広く普及していきました。

代表的な例には、トイレのマークや非常口のマーク等があります。